『雑感』（最近になって思うこと）

札幌市医師会
札幌国税局診療所
髙橋（たかはし）　究（きわみ）

北海道医報　第1110号に初投稿（タイトルは「北海道立衛生学院の閉校にあたって」）させていただいてから、約14年ぶりに投稿させていただきます。私は、平成25年４月より札幌国税局診療所に勤務しており、税務職員の健康管理と内科診療に従事しています。

趣味は、囲碁番組、報道番組の視聴、読書、特に経済誌やオピニオン雑誌を購読しています。囲碁番組については、毎週、日曜午後０時～午後２時にNHK E テレで放送している囲碁フォーカスやNHK杯テレビ囲碁トーナメントを視聴するのが毎週日曜日の習慣です。囲碁フォーカスでは、講師の語り口に特徴があり、「“アマ・ミス”クリニック」、「バランスチャート」、「石のフォースを感じよう！」、「盤上のフォーメーション」等です。今年３月までの講師の語り口は、「描け！勝利へのストーリー」で、これまでとは違った特徴があります。

囲碁フォーカスに続いて放送されるNHK杯テレビ囲碁トーナメントでは、昨年は自分が応援している一力遼棋聖が優勝しましたが、今年は準々決勝で敗れてしまい、余正麒八段が初優勝しました。来年は誰が優勝するのか楽しみです。

報道番組で気になるテーマは、ウクライナ戦争、パレスチナ・イスラエル戦争、少子高齢化、日本の財政です。少子高齢化については、個人的には合計特殊出生率の向上に向けて、何らかの手立てが必要と思いますが、現時点では、解決策が見つかっているとは思えません。これは、あくまで条件付きですが、外国からの移民が、これまで以上に受け入れやすくする政策も必要になってくると思います。自分は札幌市夜間急病センターの協力医も兼業していて、外国人旅行者が同センターを受診することがあります。翻訳アプリを介して診察するのですが、なかなか難しく、通訳を介して行う方が、円滑に診察を進めることができます。外国人が定住しやすくするには、母国語でも意思疎通ができる環境整備が必要なのかもしれません。日本の財政は、マスコミ報道等によると、年々借金が増えているようです。勤務先でも予算削減に向けて行動するよう指示されていますが、必要な医薬品、医療機器の更新等に必要な経費は削減が困難で、限界を感じています。日本には、優れた医療資源があり、これを国内ばかりでなく海外に向けても活用でいればいいのにと思ったりします。

以上のようなことを思いながら日々過ごしています。

国産Ｔ社の車を乗り換えて

札幌市医師会
ていね泌尿器科
竹田（たけだ）　孝一（こういち）

昨年12月に久しぶりに国産Ｔ社の車に乗り換えたのですが、納車前にアプリの取得やデジタルキーなどスマホとの連動がさらに進化しており、いきなり戸惑うことになった。説明を少し聞いたところで使いこなすことができるか正直不安な気持ちもあったが、使っているうちに慣れるだろうと安易に考えていた。しかしアナログな自分は、未だに本当に便利だなと思うより使うのが面倒と感じてしまい、最低限の機能しか使えていないのが現状である。

それと運転支援機能がかなり進歩しているのか、お節介とも思えるくらいに注意メッセージを乱発するのである。「前方を確認してください」「脇見を検知しました」「信号が変わりました」などＴ社の車を使用している方はご存じでしょうが、かなり厳しく指摘を受けることになる。最初は前を見ているのになぜ注意されるのかとイラついた。自分の目が小さいから検知されないのかと自虐的に思ってしまったほどである。自分が期待するような利便性と趣味性を求める車から離れていってしまう気もしたが、うるさい運転支援設定をoffにするよりもそのまま使ってやることにした。それはニュースでよく見る高齢者の運転ミスによる逆走や暴走、痛ましい人身事故など自分とも無関係とは思えない気がするからだ。自分の運転の安全性を常に再確認する上で必要な手段かもしれない。

さて話は変わるが文章を書いている今、新聞・テレビで最も騒がれているニュースは、アメリカと日本の関税交渉の最中であるということ。トランプ大統領がアメリカの貿易赤字解消を理由に関税政策を発表すると、世界中でトランプショックが起こり経済・金融市場に大混乱を巻き起こしている。とくに日本は自動車の輸出入の不均衡のため標的とされ、世界に先駆けて交渉することになったわけである。日本の屋台骨ともいわれる自動車産業の危機であり政府は国難と表現した。トランプ大統領はその不均衡を生じている原因が、日本の厳しすぎる安全基準と主張しているが、全く正当性があるとは思えない。現在の自動車の部品は一国がそう簡単に賄えるものではなく、関税対象となる部品が多いため価格上昇を招く結果となり、アメリカ人にとってもはなはだ迷惑なことであろう。

日本の交渉役代表の赤沢大臣の背負う重圧は計り知れないと思うが、はたして大丈夫なのでろうか。何とか交渉がうまくいくよう祈るばかりである。